

だっこするよ

2022年9月

社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子



子どもたちの「個の尊厳」を異年齢保育で守りたい

いちご組さんが栗の実を拾ってきてくれました。いつの間にか秋の気配がそここに感じられるようになりましたね。今年、暑さが一段と厳しかったので、夏の疲れも出る時期です。どうぞご家族皆様ご自愛ください。

9月1日は防災の日です。地震や大雨など甚大な自然災害が毎年のように起きています。保育施設として、常に安全への備えを行い、全員が連携して全員の命を守るように毎月の避難訓練を行っています。4名の防災対策リーダーが避難訓練、防犯訓練や簡易トイレ、発電機の使い方などの職員研修を担当しています。今月は、赤羽台西小学校への全員避難訓練もあります。防災への危機管理意識を高めて、安全をより確実にしていきます。

私は、乳児保育、幼児教育で経験したことは、その後の社会、人生でどう活かされていくのかとずっと考えてきました。大人の見守りと心地よいケアを受けながら子どもは、自分と他者を認識し、意思を表現し、心身共に成長していきます。脳の発達を重量から見ると6歳までに9割が育つと言われ、乳幼児期の体験は、その子の潜在意識となり、これから生きていく長い人生の土台となり、その影響はとても大きいと感じます。

私が、幼児教育を学び、担任として実践してきたのは、わらべうたの提唱と個の人格を尊び、自分で考えて行動する力を育むハンガリーのコダーイ教育でした。母語の音楽教育、子どもたちの知や美への関心をどう引き出すのか、自分を取り巻く世界をどう感じさせて理解を深めていくのか、そこでは、大人の援助は、「教える」のではなく、「感性や生き方そのものの共有」でした。またシュタイナーやモンテッソーリに代表される世界の幼児教育も「個性」「自主性」を引き出す教育法です。画一的に知識を教え込む教育は日本などアジアに残っており、勿論、その良さもあり、否定するものではありませんが、これからの幼児教育の目的は、多様な社会への練習の場であり、「集団」の協調から「個人」の時代へ、「教える」から「学ぶ」「感じる」へ、エンパワーメントしていくことだと思います。海外の幼児教育の映像では、どの子も意思、主張をもち、自分が何をしたいかが一番で、他者のことを気にする子はいません。言葉が遅くても、発達が違っても、その子が育ち開く時期があるんだよと周りから認められて生き生きと生活していくこと＝「個の尊厳」を守り太らせて、自分は自分でいいんだという自尊心を育てたいのです。きっと当初は異年齢でもモノの取り合いの喧嘩やトラブルも起きます。しかし、少子化の今、トラブルは習い事でも経験できません。保育園でたっぷりと経験を積み、トラブルへの耐性や解決能力を持たせてあげることは、やがて就学する上でもプラスになります。

異年齢保育は、本来の人間教育ではないかと私は考えます。3年間の年齢差の仲間自分たちのおうちを自治していくのです。子どもも大人も新しいおうちで、そして同学年でも協力して学び合い、2階全体で連携していきましょう。縦にも横にも斜めにも沢山関わり合う豊かな人間を育てていきたいです。

この異年齢保育への移行は、子どもたちの個を尊び、子ども自身が自ら学び成長するために行います。この信念を軸にして保護者の皆さんと全職員一緒に進めていきましょう。子どもたちの持っている力を信じ、私達大人の信頼関係の中で始めていきましょう。きっと、子どもたち、大人たちも笑顔の多い毎日になると私は信じています。

写真は 5歳児主催の2022・8・31 きゃあ～～ お化けだぞ～ こわいぞ～です